

白紙余談

新型コロナウイルス禍がもたらす二次・三次災害的な悪影響を憂うの記

◇新型コロナウイルス問題は未だ終息に向かう気配すらみえない。しかし、これについては製薬会社や大学の研究室などによる特效薬の開発が急がれており、国の防疫対策のさらなる踏み込みなどとともに、その一刻も早い成果を期待するしかない。

◇それはそれとして、ここに来て深刻化の様相を見せ始めているのが、新型コロナウイルス禍に端を発した景気低迷への懸念と、それに付随する「就職内定取り消し問題」の派生だ。とくに就職内定取り消し問題は新型コロナウイルス禍の二次災害ともいべき性質の問題。年度末という時期が時期だけに、新年度になって入社式を実際に迎えない限り、内定中の就活生の不安や懊悩は深まるばかりだろう。

◇よしんば、就職内定取り消しもなく、入社式を無事に迎えたとしても、今度は景気低迷による企業の業績悪化が襲い掛からないとも限らない。その結果、いきなり想い描いていたのとは違う社会人生活になってしまう可能性だってある。いずれにせよ、今春の新卒者には気の毒な状況というしかないが、しわ寄せは次年度に就職を控えている学生たちに及ぶ可能性もあるわけで、予断を許さない状況がしばらく続きそうだ。

◇3月13日の記者会見において、安倍首相もこの問題に触れた。安倍首相は「採用見直しの動きがあることは承知している」としたうえで、企業の苦衷も学生の不安も「察するに余りある」こと、「政府とは新規採用に協力した企業には雇用調整助成金による支援の手立てを講じているが、それを新入社員にも適応されるよ

うにした」ので「学生の前途を考慮し、なんとか予定された採用を実現していただきたい」という趣旨の要請を、企業に呼び掛けた。

◇景気低迷は、しかし、新型コロナウイルス禍が始まる以前からのことだ。新型コロナウイルス禍がそれを促進しつつあるという側面はあるにしても、この時期にいち早く内定取り消しに走る企業のなかには、自社の業績悪化を糊塗するために、採用中止の理由として、新型コロナウイルス禍を利用しようとしている向きがあるとする報道もある。

◇未知の感染症の蔓延という緊急事態のさなかに、なかなか抜本的な施策を打ち出す余裕がないという国の事情もよくわかる。だが、このような時期だからこそ逆に、対症療法的な施策ばかりを小出しにするのではなく、コロナウイルス騒動の以前から始まっていた景気低迷の抜本的要因を取り除く努力をしつつ、しっかりと将来展望を踏まえた中長期的な政策をも、同時に立案・遂行していつてもらいたいものではある。

◇ところでこの状況下、電気設備工事業界における採用状況はどうなのだろうか。新型コロナウイルス禍が業界に直接的な悪影響、すなわち景気低迷や今春の採用に影響をもたらす懸念は比較的少ないと推察される。だが、二次的、三次的に影響が及ぶことは十分に考えられる。そうした様相については、本紙でも折に触れ取材していきたいと考えている。

◇読者の皆様のご健勝、新型コロナウイルス禍に負けない社業のご繁栄を、心より祈念する次第だ。(E)